



Title	Depressive Symptoms in Chinese Factory Workers in Nagasaki, Japan
Author(s)	伊達, 豊
Citation	(2009-03-19)
Issue Date	2009-03-19
URL	http://hdl.handle.net/10069/24728
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-27T21:48:26Z

伊達豊 論文内容の要旨

主論文

Depressive Symptoms in Chinese Factory Workers in Nagasaki, Japan
(長崎県における中国人労働者の抑うつ症状)

伊達 豊、 安部 恵代、 青柳 潔、 叶 兆嘉、
高村 昇、 富田 雅人、 尾崎 誠、 本田 純久

Industrial Health. (in press)

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 公衆衛生学分野
(主任指導教員：青柳 潔 教授)

緒言

わが国では少子高齢化により労働人口が減少しつつある。労働人口の減少が予想される社会では経済的社会的発展を一定水準に維持することが大切である。この労働力不足に対応するため、外国人労働者の受入れが議論されている。1991年の国際研修協力機構(JITCO)設立以来、中国人を主に外国人労働者数は増加している。

また自殺をはじめよく見られるようになった抑うつ症状が労働者の間で問題となっている。最近、日本の外国人労働者についていくつかの研究がされているが、日本で一時的に働く外国人労働者の抑うつを含めた精神保健はほとんど知られていない。本研究の目的は中国人工場労働者の抑うつ症状を調査し、それと関連する要因を明らかにすることである。

対象と方法

長崎県内の常時50人以上の労働者を雇用する事業所で、直接雇用された中国人労働者219人に自記式質問票を郵送した。調査項目は社会人口的属性(性 年齢群 在日期間)、労働条件(週労働日数 1日労働時間)、健康管理項目(健康診断 健康教育)、社会的支援(職場の通訳)、健康関連行動(飲酒 喫煙 運動習慣)、抑うつ評価(CES-D:中国語)である。

統計解析は回答があった156人のうち、CES-D質問票に完全回答した81人を解析対象とした。労働条件と抑うつ症状の相関はSpearman's rank test、カテゴリー変数と抑うつ症状の単変量解析はWilcoxon rank-sum test、単変量解析でP値が0.1未満であった変数を調整して多変量解析を行なった。解析は統計ソフトSAS(8.2版)(SAS Institute Inc., Cary, NC)を用いた。

結果

女性 52 名(64%)、男性 29 名(36%)であった。

対象者の年齢は 19 歳以上 49 歳までで、75%が 19 歳から 29 歳までの年齢群に属していた。在日期間は 4 年未満で、2 年未満が 37%であった。全対象者の 95%が健康診断を受け、84%が健康教育を受けていた。68%が職場に通訳がいた。飲酒は 17 名(21%)、喫煙しているのは 18 名(20%)、23 名(28%)に運動習慣があった。38 名(47%) が週労働日数 5 日以上で、39 名(48%) が 1 日 8 時間を越える労働時間であった。

労働時間と CES-D スコアは有意な正の相関があったが ($P=0.02$)、週労働日数とは有意な関連はなかった。高年齢群 (30-49 歳) は低年齢群 (19-29 歳) に比べて CES-D スコアが有意に高かった。 ($P=0.03$) 職場の通訳とは境界有意であった。 ($P=0.06$) 健康管理項目や健康関連行動とは関連を認めなかった。CES-D スコアの多変量解析では 1 日労働時間だけが有意であった。 ($P=0.023$)

考察

本研究で 1 日労働時間と抑うつ症状は有意に関連していた。これは他の研究結果と一致した。高年齢群と抑うつ症状の関連は低年齢群にくらべて境界有意であった。他の研究で高年齢群は抑うつ症状は減少するとするものや関連はないとするものがあるが、外国人労働者の場合、仕事内容の熟練度がそれほど問題とならず労働報酬不均衡が高年齢群でより影響していた可能性がある。

在日期間、健康関連行動とは有意な関連はなかった。職場の通訳とは境界有意であった。母国語でコミュニケーションできる外国人はより適応できるといふ指摘もあり通訳の存在は外国人労働者の精神保健を改善する可能性がある。

健康診断、健康教育で有意な関連はなかったが外国人労働者の抑うつはしばしば身体化障害として表れるとした報告もあり健康診断は抑うつに関連する身体化障害を発見するのに有用であり、適切な健康教育は抑うつ症状を減らす可能性がある。

本研究の限界としてサンプルサイズが小さいため CES-D スコアと変数との正確な関連を見つけ得なかった可能性がある。回答例が相対的に低いため選択バイアスを考慮すべきである。質問票が読めない、理解できない低い教育レベルの対象者が CES-D スコアにおり過少評価している可能性がある。婚姻、収入、教育レベルなど抑うつ症状と関連すると言われる変数を含んでおらず、これらを含んだ検討が今後必要である。

結論

労働時間、年齢を考慮した健康管理は外国人労働者の抑うつ症状を減ずるために重要と考えられた。